

すみれ通信 10月号

すみれ通信は、医療・介護に携わる方に
発信しています

(第136号)

〒 251-0032
藤沢市片瀬339-1
藤沢市医師会館
在宅医療支援センター
TEL 0466-41-9980
FAX 0466-41-9981
✉ fuji-zaitaku@movie.ocn.ne.jp

2040年に向けての地域医療構想について

厚生労働省は、2026年7月に「[2040年に向けた地域医療構想策定ガイドライン](#)」を公表しました。改正医療法では2028年度までに各都道府県で地域医療構想を策定すると定めており、都道府県が2040年を見据えた地域医療構想を策定・推進する際の基本的な考え方や進め方を示したもので、[入院における病床の機能分化のみならず、外来医療・在宅医療、介護との連携、人材確保等も含めた地域の医療提供体制全体の課題解決を図るためのもの](#)として位置付けられています。

在宅医療の基本的な考え方としては、今後医療と介護の複合的な課題を抱える高齢者の増加に伴い、在宅医療の需要が増加することが見込まれる中、そのすべてを在宅医療で受け止めるものではなく、広く慢性期医療の需要として、地域の実情に応じて、療養病床のほか、介護医療院、介護老人保健施設、特別養護老人ホームといった介護保険施設を含む地域の既存資源を組み合わせ対応していくこと、限りある資源の中で、効率的な在宅医療提供体制を構築する必要があるとされています。

ICT等の活用による平時からの連携体制の構築など、様々な場面での多職種連携が益々重要となってきます。

関心のある方は、厚生労働省ホームページ等をご参照下さい



第2回市民公開講座の報告

日時：令和8年9月5日(土) 14:00~15:30

場所：湘南台市民センター地下1階ホール

テーマ：人生最終段階の医療とは

～高齢者施設への訪問診療の現場から～

講師：湘南第一病院 副院長 長嶋 道貴 先生

参加者：75名 関係者8名 スタッフ9名

(頂いた感想)

- ・「手加減」や今必要な医療。施設に入所して1年半、母の今後、最終段階をイメージするのにとても参考になりました。
- ・自然な経過を見守る「看取り」。あきらめるのではなく、落ち着いて人の命に向き合うことの必要性、医療を選びなおすことの必要性を改めて痛感しました。
- ・最終段階に向かうにあたり、自分の気持ち、家族の思いなど話し合っていることが大切。先生がおっしゃる「手加減」は、すごく大切だと思います。情報をきちんと得て、必要な医療を選び直すことを考えていきます。

多くの方から申込を頂き、募集人数を超えて受付させていただきましたが、それでもお断りをした方もいて、関心の高さを感じました。参加者はほぼ60代以降の方で90歳を超えた参加者の方もおられ、ご自身のこととして今後のことを考えるきっかけになったのではないかと思います。



在宅医療の現場から No.11

なないろ訪問看護ステーション
管理者 篠原 由菜



なないろ訪問看護ステーション管理者の篠原です。当ステーションは今年11月で開設から5年を迎え、私は開設当初より管理者を務めております。さらに、9月には弥勒寺サテライトもオープンし、より一層飛躍の一年になるとわくわくしながら、日々の業務に励んでおります。

訪問看護師になる前は、三次救急の大学病院に勤務していました。母が看護師として働いており、幼少期からその背中を見て育ったこともあり、物心ついた頃にはすでに看護師という職業に憧れを抱いていたことを覚えています。看護学校へ入学後、現場での実習を通して何度も心が折れそうになったこともありましたが、持ち前の負けず嫌いな性格と「人が好き」という思いが支えとなり、無事に看護師になることができました。

大学病院では、救急病棟や腎・泌尿器科、脳卒中センターなど、さまざまな疾患を抱える患者様と関わり、日々多くの学びを得ながら有意義な時間を過ごすことができました。私が勤務していた大学病院では、入院当日から退院支援が開始され、急性期を脱するとすぐに他院への転院もしくは自宅への退院が決定するという、いわゆる「回転数の多い」病院でした。看護師10年目の頃には退院支援ナースとしての役割を担うことがあり、入院中に患者様へお伝えした内容が、退院後も自宅でスムーズに実施できているのか、病院と同じような管理が継続できているのかと疑問に思う場面が多くありました。その頃から在宅医療に関心を持ち始めたのが、訪問看護師を志すきっかけとなりました。

コロナ禍を機に、長年勤めていた大学病院を退職し、訪問看護の世界に飛び込みました。最初は分からないことも多く、右往左往していた時期もあったと思います。現在もなお、利用者様の支援方法や介入のあり方について迷うことはありますが、その都度、同じステーションで働く仲間や訪問医の先生方、ケアマネジャーの皆様から知識や視点をお借りし、在宅生活を支える多職種の皆様との連携やご指導の中で、多くのことを学んでいる最中です。

私が訪問看護師として大切にしていることは、「これからどのように過ごしていきたいか」「何を大切にしたいか」という思いに寄り添うことです。そのために、時間をかけてお話を伺うことを何より大切にしています。

一人ひとりの希望や想いを尊重しながら、この藤沢の地域で、今後とも訪問看護師として歩み続けていきたいと思っています。

